



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 61

PROFILE

1966年大分県出身。小学1年生のときに野球を始め、駒澤大学を卒業後、89年に広島東洋カープに入団。日本プロ野球史上6人目のトリプルスリー（年間の打率3割、30本塁打、30盗塁）達成など、チームを率いる内野手として2005年まで活躍し、10年から14年まで同球団監督。広島東洋カープは「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

これまで、プロの野球選手としての交流やコーチングの勉強などでアメリカやドミニカ共和国などを訪問したことはありましたが、それ以外の開発途上国で活動したのはこの夏が初めてでした。今年、戦後70年の節目として、JICAから野球教室開催の依頼があり、7月、指導のためにスリランカに向かいました。

スリランカには日本の援助で作られた立派な野球場がありますが、全国大会は年にたった一度しか開催されません。しかも、全国に30ほどあるチームのうち、費用が捻出できないなどの理由から、実際に参加するのは半数ほどにとどまると聞きました。すべてのチームが大会に参加できるようになり、国民の関心が高まれば、より強い選手の育成につながると思います。それには時間がかかりますが、世界で活躍できるだけの才能を秘めた若い世代は必ずいるはずですよ。

野球教室に参加した子どもたちとは、時間がたつほどにコミュニケーションが取れるようになりました。すると、「野球を学びたい、うまくなりたい」という気持

国を超えて野球楽しむ仲間を

野球解説者 **野村謙二郎**

NOMURA Kenjiro



ちがはっきり伝わってきたんです。笑顔を輝かせ、自分から積極的に練習に参加しているこの少年たちが、どう成長していくのか。また、今後スリランカという国がどのように発展するのか、これからも見守っていきたいと思います。いつか、彼らが野球を通じて国内で、あるいは世界で活躍するところを見ることができれば、指導者冥利に尽きますね。

私がどれほど長い間、日本で野球選手・監督として活動していたとしても、その経歴は海外では通じません。むしろ、一人の野球好きとして、他のプレーヤーと一緒に楽しむことが最も重要です。同じ野球を楽しむ仲間を増やしていく延長線上に、世界で活躍できる資質を持った選手が一人でも多く出てくるのが大切なのではないかと考えています。

また、今回は、野球教室以外にも、内戦で傷ついた町を訪問する機会がありました。スリランカは1983年から四半世紀にわたって続いた内戦で大きな傷を負った国です。その悲しい歴史や内戦の実態について話を伺い、意識を改めるととも

に、内戦後の国の整備や社会的支援などでJICAをはじめとした日本のさまざまな組織が活躍していることを知り、現地の方々から日本の皆さんに対するたくさんの感謝の言葉を聞くことができたことは、とても印象に残りました。

これまで、私はJICAの活動をあまり知りませんでしたが、今回の野球教室を通してさまざまなことを経験し、普段の生活の在り方を考え直すことができました。そうした機会を与えてくれたJICAに感謝するとともに、関係者の皆さんのさらなる活躍を期待しています。また、読者の皆さんも、JICAのさまざまな活動に、ぜひ参加してみてくださいと思います。きっと、それまでは全く知らなかった世界が開けるはずです。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索